

広葉樹用材の利用実態調査

一球磨郡市の広葉樹材専門加工工場の場合一

熊本県林業研究指導所 宮島 淳二

1. はじめに

広葉樹材の市場調査を行うなかで樹種別に価格特性があることは前報¹⁾で報告した。今回は更にそれを裏付けるべく実際に加工している工場に行き、樹種別の用途等について個別に聞き取り調査を実施したので、その概要を報告する。

2. 調査方法

前回調査した熊本県球磨郡深田村の県森連事業所で材を購入している球磨郡市(球磨郡及び人吉市)にある5工場で聞き取り調査を実施した。調査項目は(1)工場の規模、(2)製品の種類及び出荷先、(3)樹種別用途、(4)原木の入手先、(5)その他原木供給側への要望の5項目とした。

3. 調査結果

調査した結果は表-1のとおりであった。

(1) 調査対象工場の規模

調査対象工場は人吉市2件、球磨郡錦町、上村、免田町各1件計5件の広葉樹専門加工工場で、工場の規模は、表のとおり従業員数8~14名、原木消費量は2,000~2,800m³、出力50KW前後であった。

(2) 製品の種類及び出荷先

製品はほとんどが一次加工品でフローリング用荒挽板、造作材、スコップ、ハンマー等の柄材、家具用の板、角材を生産していた。最終加工品としては、土台角、枕木、フローリングパネルおよび木製カーペットなどがあった。その出荷先はフローリング加工工場、集成材加工工場、家具工場、木材センター、木材市場等で、地域的には一部県内もあったが、多くは九州管内の他県(福岡、大分、鹿児島)および山陰、関西方面であった。特にクリの土台角は、山陰、関西方面で需要が多く、かなり高値で取り引きされているようである。

(3) 樹種別用途

調査対象工場で取り扱われていた樹種は、ケヤキ(*Zelkova serrata*)、ミズメ(*Betula grossa*)、

クリ(*Castanea crenata*)、ミズナラ(*Quercus mongolica*)、ブナ(*Fagus crenata*)、サクラ(*Prunus Jamasakura*)、カシ類(*Quercus gilva*, *-acuta*, *-myrsinaefolia*)、シイ類(*Castanopsis cuspidata*, *-cuspidata* var. *Sieboldii*)、ミズキ類(*Cornus* L. 属)、シデ類(*Carpinus* L. 属)、タブノキ(*Persea Thunbergii*)、クスノキ(*Cinnamomum Camphora*)の12種におよんだ。これらの樹種別用途は、表-2のとおりであり、樹種により用途の幅が広いものと、狭くないものがある事がわかった。特にカシの柄材、クリの土台角等は製品が樹種を限定している例もあった。また家具用材と一言でいっても、良く知られているケヤキやミズメのように化粧板として家具の表面に貼る機種もあるが、ミズキやシデ等のように椅子や机の脚や袖、引き出しの裏板や把手に使われる樹種もある。さらにフローリング用材(広義で緑甲板も含む)集成加工技術の発達により、無垢のものから合板に貼り付けるものまで、厚さは様々で今回5工場の調査では、クリを使ったものが多く見られたが、その後熊本市内の建材店での聞き取り調査では、ナラおよびブナが主流でクリは、あまり流通していないようであった。

(4) 原木の入手先

原木は、主に木材市場から入手しているようで、一部仲買い業者、国有林の購買、商社、製紙会社からも入手していた。地域的には、球磨郡市はもとより、宮崎、鹿児島、福岡の九州管内および遠くは、四国、関西、中京地方まで足を伸ばしている。

(5) その他原木供給側への要望

今後使用したい樹種として、ケヤキ、ミズメ、サクラ、カシ、クリ、シオジ、ミズナラ、ブナが挙げられた。その理由は、(1)材が比較的容易に入手できること、(2)用途が明確で消費者に認知されている、(3)加工技術が確立しているということであった。採材上の注意点として、(1)伐採時期(秋の彼岸から春の彼岸まで一梅雨時期を避ける)、(2)材長は4.2mが理想的で、4.3m、3.3m等の奇数は好ましくない。材の欠点としては、虫入り、ヤケ、クサレ、割れ、目回り、目抜け等

の傷物および大曲り、極端な小径木（末口径14cm未満）は、購入できないが、節については大節、死節でなければよく年輪幅は問わないということであった。

4. 考 察

以上の結果から用途が多岐に渡るものとそうでないものがあることがわかった。特にクリ、カシのように用途から逆に限定される例もあった。前報で報告した樹種別の価格特性は、実はこの用途に因るところが大きいようである。つまり、ケヤキやミズメ等は家具用、造作用の化粧板として加工されることから径級が大きくなるほど材価が上がり、カシやミズキは、柄、家具の脚として芯去り材を使うことから、製品自体は5cm前後の小角であるものの、ある程度の径を必要とするので径級が大きくなるほど材価が上がる傾向はあるが、前者ほどではない。クリは、芯持ちの土台角が製品の主流であるため、直材であれば末口径20cm程もあれば充分ということでそれ以上径級が大きくなっても材価は上がらないが、20cm程で比較的高値で取り引きされる。いずれの樹種も、原木の量の確保が大きな問題であり、入手の為に遠隔地まで足を伸ばしている現状で、東南アジアのゴムノキや中国東北部(旧満州)およびソ連産のニレ、タモ、カバの入手も考えているという声もあった。

表-2 樹種別用途および形状

樹種	用 途	末口径	材長	品質
クリ	土台角	14cm上	2.1m上	芯持ち
	フローリング材	18cm上	〃	
	化粧板, 家具用材	40cm上	〃	無垢
カシ	柄木, フローリング材	24cm上	1m上	芯去り
	ブロック製造型枠 樫, 舵			
ケヤキ	縁甲板	14cm上	2.1m上	
ミズメ	床柱, 一般家具材	30cm上	〃	
クス	化粧板, 高級家具材	40cm上	〃	無垢
ナラ	フローリング用材	18cm上	〃	
	化粧板, 高級家具材	40cm上	〃	無垢
ミズキ シデ	家具用小角材 (脚, 袖)	18cm上	1m上	芯去り

引用文献

- (1) 宮島淳二：日林九支研論，41，15～16，1988

表-1 調査対象工場の概要

		A 社	B 社	C 社	D 社	E 社
規模	従業員数	10名	10名	12名	14名	8名
	取扱量	2,800 m ³	2,700 m ³	2,000 m ³	2,000 m ³	2,000 m ³
	出力数	不明	100 KW	50 KW	90 KW	25 KW
製品	一次加工品	フローリング用荒挽板, 造作材	家具用材, 柄木 躰具材, 造作材	フローリング用荒挽板, 造作材	フローリング用荒挽板, 家具用材	フローリング用荒挽板, 家具用材
	最終加工品	枕木, 土台角	土台角	土台角	土台角, フローリングパネル	かまち, 敷居
出荷先	県内	フローリング加工工場	フローリング加工工場, 材木市場	フローリング加工工場		
	県外	家具材; 大川市 土台角; 山陰関西	福岡, 北九州 大分, 鹿児島	山陰, 関西	北九州, 山陰	大川市, 宮崎, 日田市
入手先	市場	球磨郡市	九州一円, 四国 山陰, 中京	球磨郡市	球磨郡市, 大川(福岡)	球磨郡市, 日向市(宮崎)
	その他	仲買り業者 (宮崎)	国有林, 商社	仲買り業者		国有林, 製紙会社